

種の熟練工、凡そこれらの者は他の一切の財産を合せたよりも一層大なる價值があると認められてゐた。

斯くの如き、熟練あり及び熟練なき、教育あり及び教育なき、大奴隷軍に依つて集積された富は實に莫大なるものであつた。殊に其の羅馬に於けるが如きは、近世の米國でヴァンダビルトや、ジェー・グールドや、ロックフェラーや、アストルなどが、あの大富を擧げだまで、恐らく人類の全歴史に於いて他に比類のないものであつたらう。レビダスがあの大軍を維持する事が出来たのも、奴隷の力であり、ハンニバルが伊太利で十七年間その軍を支へ得たのも、主としてスペインに在る彼の銀鑛に於ける奴隷の力であつた。又シーザーが羅馬共和國の首長にならうと企てた時、少くとも三百萬ポンドの金を彼に貸さうと約束した金貸があつた。以て當時に於ける富の程度を見るべきである。而もこれらの大富の實例は、大奴隷制がまだ最高の發展をしない時の事である。

そこで一見すれば、此の財物奴隷の生産法は、封建制よりも、共產制よりも、遙かに多く今日の賃銀奴隷の生産法に似てゐるが、又甚だ違ふ點がある。財物奴隷制に在つては、生産者と其の生産物が共に主人に屬してゐた。兩物共に他に賣渡す事が出来た。奴隷の生産物の多量、若しくは其の大部分は、之を賣つて金に代へる事が出来た。然し希臘、羅馬、カーセージ、若しくは小亞細亞の大地主及び大奴隷所有者は、決して今日の意味に於ける資本家ではなかつた。彼等の富は只だ其の奢侈の爲、若しくは其の名譽を増さんが爲に使用された。彼等は其富を以て、更に一層多大の富を得んが爲に、他の生産事業を起すのではなかつた。故に其の社會關係の全體が今日と異なり、其

の手段も目的も全く違つてゐた。

けれども其の結果の外は多くの點に於いて同一である。試みに奴隷自身の側から考へて見る。古代の奴隷は自分の地位を當然と思つてゐた。それは今日の歐米の賃銀奴隷が、大抵、自分の經濟的從屬の地位を一定不變の者と思つてゐるのと同じで、實に避くべからざる自然の成行であつた。彼等は奴隷なくして存在する社會を想像する事が出来なかつた。當時の大哲學家ですら矢張り左様に考へてゐた。古代史上の最大の思想家たるアリストートルですら、器械の力でも借る事が出来たら知らぬ事、この奴隷といふ根本制度を無くする法はないと云つてゐる。そして彼が器械といふ事に思ひ至つたのが、即ち彼れの非凡なる才力を示す證據だと云はれてゐる。然るに當時の數は實に多大なものであつた。即ちアデンでは自由市民（男女小兒を合して）九萬人に對し、三十五萬五千人の奴隷と、四萬五千人の奴隷巡査があつた。コリント、エギナ、スパルタも略ぼ同様であつた。羅馬に於いては其差が一層甚だしかつた。そこで支配階級は、其の内部に紛争があるにも係はらず奴隷が何をやりだすかも知れぬいふ恐怖について、一致の態度を示した事も一度ならずあるが、然し實際奴隷の叛亂が起つて見ると、それが時代の經濟的傾向に反してゐた爲、皮相の觀察者が想ふような大した騒ぎにはなり得なかつた。小亞細亞、希臘、及びスペインの諸鑛山に於いては、奴隷の虐待が殊に甚だしかつたが、それでも叛亂は滅多に起らなかつた。そして偶々起つた時には、近世の權力階級も及ばないほどの殘虐暴戾で鎮壓された。シビオが大道で二萬人の奴隷を磔殺した事實などは、佛蘭西の暴虐な將軍として有名なギャリフエーでも及ばない。然し都市では何しろ奴隷が